

新潟大学 災害・復興科学研究所 第21回災害環境科学セミナー

新潟焼山に関する研究紹介

日 時：平成30年7月23日（月）16:30-17:45

※大雨等で県内に大きな被害が発生した場合は、中止することがあります。

場 所：新潟大学 災害・復興科学研究所 1階 プレゼンテーションルーム

講演者・タイトル：舟崎 淳氏（新潟地方気象台）「新潟焼山1949年2月の噴火について」

藤原善明氏（新潟地方気象台）「新潟焼山1974年噴火に関する降灰シミュレーション」

参加方法：どなたでもご参加いただけます（申し込み不要）

問い合わせ先：西井稜子 [ryo-nishii\(at\)gs.niigata-u.ac.jp](mailto:ryo-nishii(at)gs.niigata-u.ac.jp) (at)をアットマークに変えて送信してください



新潟焼山（撮影：河島克久）

○発表者 新潟地方気象台 舟崎 淳

○タイトル

新潟焼山 1949 年 2 月の噴火について

○要旨

新潟焼山は新潟県の西部にある標高 2400m の活火山である。明治以降では、1949 年、1962 年、1963 年、1974 年、1983 年、1997 年、1998 年に水蒸気噴火が発生した。最近では 2016 年 4、5、7 月に噴火があった。

これらの噴火のうち、遠方まで降灰を伴ったものは、1949 年 2 月と 1974 年 7 月の噴火である。1974 年 7 月の噴火については、茅原（1975）の緊急調査研究報告書等に詳しく記載されており、詳細が知られている。

1949 年 2 月の噴火については、Ichimura et al., (1949) 等の論文や早津（2008）によるまとめなどに噴火の概要が記載されている。しかし、噴火の詳細は必ずしも明らかになっていないとは言えず、降灰量の推定値も報告されていない。

1949 年 2 月噴火の直後に気象台等が実施した調査結果が、新潟地方気象台に保存されており、本発表では、これらの資料をもとに、1949 年 2 月の噴火の詳細を報告する。また、降灰量を推定し、1974 年 7 月の降灰量と比較する。さらに、本調査の結果をもとに、新潟焼山の火山防災対策の留意点を考察する。

○発表時間 約 40 分（質疑込み）

○発表者 新潟地方気象台 藤原善明

○タイトル

新潟焼山 1974 年噴火に関する降灰シミュレーション

○要旨

新潟焼山は新潟県西部にある標高 2,400m の活火山である。約 3,000 年前以降の活動では、特に、明治以降の活動は噴気の活発化や熱水の流出が発生するなど、時折火山活動の高まりがみられる。このうち、1949 年及び 1974 年の噴火では、山麓に影響を及ぼす程度の水蒸気噴火が発生した。本講演では、1974 年 7 月 28 日噴火について、気象庁 55 年長期再解析プロジェクト（JRA-55）で作成されたデータセットを初期値・境界値として、気象庁非静力学モデル（JMA-NHM）で作成した大気場を用いた降灰シミュレーションから降灰分布を推定し、実際の降灰分布と比較検証を行った。シミュレーション結果は実際の降灰分布と概ね一致し、当時の噴煙及び降灰の状況を再現することが出来た。

○発表時間 約 30 分（質疑込み）